

「くっくっ、」人でもおもしろいところなんだって
後編でやってみようか…」

「くっ…このようにくっくっ…
ですが私は貴方がたなごに
屈っしはしませんっ！」

（もうじき仲間が来るはず…
それまではこの辱めに耐えなければ…）

（ですがこの下腹部に刻まれた紋様は一体？
なにか熱く疼く感じが…）

「それでやあ
約束通り俺が「番」...」

「なっ!?
そっそのお尻をい「NO」っー
あ、あやめなせらっー」

アッ

「〜っーっーっーっーっーっー
あやめなせらっーっーっーっーっー」

(なっ、何かが中だっ!!
熱くてお腹が灼けてしまっらっらっらっ...)

「おっおっおっおっおっおっ」

「おっおっおっおっおっおっ」

「おっおっおっおっおっおっ」

「おっおっおっおっおっおっ」

「おっおっおっおっおっおっ
だが...くっくっくっくっくっくっ」

「…プレイのやり方を教えて
いっただい私に何をしようって」

「何って…
お前を誰が孕ませるか
ゲームをやっているのぞ」

エロっ…

（なっ…!?
まさかこれが男女のまぐわい…
子作りの儀式…!）

「や、やめっ……！
私は貴方がたの子をど
孕む気はもうとうありませんっ！」

「安心する
すぐに気が変わるわW」

「貴様の下腹部に刻まれた紋様は
体内に傀儡ナノマシンが定着した証拠！」

ズン

「子宮に注がれた精子に反応し
着床すれば遺伝子レベルで
そいつの傀儡人形とかす！」

「まだ試作段階だが
ちよつと良し実験体が出来てきてくれた
今、貴様を試してらるわなわな。」

ズ
ズ
ズ

「インソレの術を
そのようにいって使ってるの……」

「……紋様が反転してしまってる
コイツ感じてやがるぜ……」

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

「うんぬん……
俺の……」

「……このままでは……
傀儡の術は高等な技術……
もし話が本当であれば私は……」

あ

あ



「おっぱい」

♡ おっぱい ぽろぽろ♡

「やべっ勢い余って抜げちゃった…」

（た、助かった…の…ですか？）

（白い液体…物凄い匂い…
こゝこんなものが私の中だっ…
あ、ああ…♡）

「変われ…一発は一発
次は俺様の番だ」

ぐわっ

（お、大きいっ…!?
今までとは…レベルがっ…）

グ
ー

「へへっ、お前を孕ませるのは俺様だ
傀儡奴隷になる前だしっかり
覚えとけよ」

「くっ、誰があなたのような…
卑怯者のっ、傀儡になるものですかっ…」

「生意気な態度も今だけだ」

♡♡♡♡♡

「デクなしのロイツのせじゃ
イケなかつたみたいだが
しっかりとほぐれてはいたな」

ズキユ

ズキユ

おお

あっ

ほっ

「ふんふんコロコロが耳にめたらいたなも...」

あっ

ズキユ

あっ

(なっ...体がっ、砕けてしまっ...
「ア」これほっ...いっ...たい...
...

トロトロ

「オラツン孕めっ！
俺様がお前のご主人さまだっ！」

おっ♡おっ♡

ドクドク

おっ♡

おっ♡おっ♡

ドクドク
ドクドク
ドクドク
ドクドク
ドクドク
ドクドク

「突で堕ちたみたいだなあ
俺様が誰かわかるか？」

ゴッポ...

「おっ♡おっ♡...
わ、私の口那...様...
〜んんんん〜」

「ちゃんと傀儡化してるか確かめねえとな…
オラ、お前らちゃんと見てるよ」

「雪泉！
自ら俺様のチンポに奉仕して
ヨイツラに見せつけてやれ！」

「は…はい♡
旦那様の言う通り♡」

「てっ…命令されると…逆らえない♡
気を強く持たないと…本当にこの卑劣な殿方が
愛しくて大切な存在に思えてしかたない♡
く、傀儡化が進む前に…皆さん♡助けたい♡」

「旦那様の嬉しいオチニポ♡
雪泉のオマンニ♡でん奉仕させて頂きます♡」

グッ
ッ

「あ、ああ…♡
このようにはしたない格好っ♡
ひ、卑猥な言葉が次々と頭に浮かんでっ♡
い、意識がっ…♡」

「おのちのちおんなのこに思われたいわね」

お、おおおっ♡

あっ♡

おおおっ♡

ズズズ

「どうだ？俺様のチンポは？」

「お、奥まで届いてっ♡いいですっ♡
貴方様がっ♡旦那様で良かったですっ♡
い、「一番大きかったっ♡…♡ですからっ♡」

「うんうんはるかさん
旦那様…♡」

「雪泉のオチニボはさ
このように申猿なオチニ
初めてさっ♡」

「旦那様のオチニボが♡
雪泉のなかで擦れてっ♡」

「おオチニ♡お持ちはさっ♡」

パン

パン

パン

パン

ほっ♡

あっ♡

あっ♡

ほっ♡

バイオ

キュ

あ、あぁあっ♡

ほっ♡

（だ、ダメッ♡腰が止まりませんっ♡
どんどん気持ちよくなってっ♡…♡）

（ダメなのになっ♡
あぁ♡もっど…♡
もっと欲しくなっどっ♡止まりませぬ♡）

あっ♡あっあっあっ♡♡♡

「…うっ…うっ…うっ…うっ…うっ…」

あっ♡

あっ♡

あっあっあっ…♡

「射精と同時にイッたようだな
ククツ、ナノマシンが反応して
強制アクメを引き起こすからな」

「ナノマシンが注がれる快感は
今までの比ではないからな」

ズー

ビュッ

ブルブル

はっ♡

「アッくんなに射精でっ♡♡♡」

はっ♡

はあ♡

ズル
:
:

はっ♡

「どっとうでしたか♡
雪泉のオマニハ♡」

「ふむ、なかなか良かったぞ…合格だ」

「あ、あらがどうへんせむらあわっ♡♡♡」

「あ、まだ♡んをこ固く♡」

「だ、旦那様がよろしければ♡
もう一度…オチンポを使っても♡」

「ククッ、随分気に入ったみたいだな
今は好きなだけ可愛がってやる…」

「その代わり邪魔な月閔がいる
貴様の仲間を売ってもおさげなっ♡」

「ほ、ほ♡
旦那様の望をまます♡」































